

いことの重要性を指摘している。文中に引用されている釜石市の野田武則市長の「犠牲者が多かったのは、沿岸部ではなく、海の存在を忘れがちな市街地だった」「防潮堤や防波堤は高くなるほど危ない。海が見えなくなるからだ」との言葉には不思議な説得力がありそうに思われる。

○去る3月9日には、東北大災害科学国際研究所主催の記念シンポジウムが仙台市で開催されていた。その冒頭挨拶の中で紹介された以下のフレーズは心に深く突き刺さるものであった。

- ・3月11日のあの日から、3年目の春がやってきました。
- ・もし、あの日あの時の10分前、20分前に戻ることができるのなら、誰もが、避難しよう、逃げよう、と考えるのではないのでしょうか。
- ・あの日あの時、あの人が逃げてくれていたなら、と今も考えている方々がたくさんおられるのではないかと思います。
- ・私たちはこのたびの大津波で、あまりにも多くの命を失いました。
- ・その悲劇を繰り返さないために、海辺で大きな地震があったなら、警報が出なくても、「とにかく高台に逃げる」ということを身体に刻みこむ必要があります。
- ・それが未来の10分前、20分前になるのです。

○先月の仙台滞在中に、石巻市役所を訪問し、市民課で「東日本大震災における石巻市の町字別犠牲者数」という統計資料を見せていただいた。この資料に大川小学校事故検証報告書や、宮古市田老地区、名取市関上地区の被害統計資料を加えて、津波災害による死者率の比較を試みた結果は以下の通りであった。死者率の持つ重みを真摯に受け止め、その数値の大きさの理由を明らかにしておくことは是非とも必要であろう。

住所(町字別)	人口(人)	死者・不明者(人)	死者率(%)	備 考
石巻市立大川小学校	119 (児童+教職員)	84	70.6	*1
釜谷地区(入釜谷を除く)	209	175	83.7	*1
石巻市金谷字菫島	222	105	47.3	*2 人口は上段と不一致 死者の合計は上段の 釜谷地区と一致
石巻市金谷字新町裏	110	49	44.6	
石巻市金谷字谷地中	48	21	43.8	
石巻市長面字江畑	247	34	13.8	*2 金谷より海側
石巻市門脇町3丁目	492	50	10.2	*2 石巻日和山南
石巻市南浜町2丁目	671	63	9.4	*2 日和山南沿岸
石巻市松原町	556	79	14.2	*2 石巻渡波地区
石巻市長浜町	416	44	10.6	*2 石巻渡波地区
石巻市雄勝町雄勝字味噌作	325	32	9.9	*2 雄勝地区の中心
宮古市田老地区旧市街地	1,610	72	4.5	*3 二重防潮堤の中
宮古市田老地区新市街地	566	55	9.7	*3 二重防潮堤の外
名取市関上1丁目	655	49	7.5	*4 最も内陸側
名取市関上2丁目	873	211	24.2	*4 貞山堀の内陸側
名取市関上3丁目	342	45	13.2	*4 貞山堀の海側
名取市関上4丁目	762	89	11.7	*4 港地区

*1 大川小事故検証報告書 *2 石巻市市民課 *3 毎日新聞「震災検証」取材班 *4 NHKスペシャル取材班

○4月2日に南米チリ沖でM8.2の地震が発生した。例によって、気象庁は3日未明に北海道から千葉外房に至る太平洋沿岸と伊豆・小笠原諸島に津波注意報を発令し、NHKはラジオ放送等によってそれを伝えたが、その内容は単調極まりないもので、津波予想高さが最大でも1メートルということと、ひたすら各地の津波到達予想時刻を繰り返すのみであった。東日本大震災を経験し、その1年前のチリ地震津波では津波高さを過大評価して気象庁が謝罪会見をするなどの苦い経験もあった訳で、それにも関わらず津波高さの予測方法や津波警報の伝達方法については何の進歩もなかったのではなかろうか。「最近の津波監視体制の拡充と解析精度の向上によって、津波予報はこの程度に改善されました」と説明してくださることを期待しているのであるが・・・

[2014年4月22日(火)]

○先月の石巻市役所に続いて、今月の仙台滞在中には仙台市役所を訪問してみた。仙台市役所はもう何度も訪ねているが、新たな疑問にぶつかる度にお世話になっている。今回、市役所のロビーで目を引いたのはソチの冬季オリンピックで活躍した羽生結弦選手の写真展であった。仙台出身では荒川静香選手以来の金メダルで、近々祝勝パレードも予定されているとのことである。それはともかくとして、今回の目的は、石巻市役所で前回入手したような詳細な津波被害資料を得ることであった。様々な部署を回って、またもや助けられたのは市政情報センターであった。そこで紹介された危機管理室減災推進課応急対策係には実に親切に対応して戴いた。石巻市のような詳細な町字別犠牲者数は仙台市では公表していないとのことであったが、公表していないと云う事実を知ることが当初は困難なことであった。また、教えて戴いた“統計情報せんだい”は人口動態や国勢調査の内容を網羅した大変貴重な資料であった。何よりも大きな成果は、町字別の人口に加えて、同じ町字別の昼間人口を推定できたことであった。これには、国勢調査に記載されている15歳以上の就業者・通学者のうち、他区・県内・他県への就業者・通学者を総人口から差し引いたものを昼間人口とする仮定が入っているが、さらに[昼間人口]/[人口]=[在宅率]を定義することによって死者率を見直してみたのが次の表である。ここでは、全地域における在宅率を一律55%と仮定した場合の死者率を示しているが、明治の三陸津波や昭和の三陸津波、さらには1960年のチリ地震津波など夜間に発生した多くの津波災害との比較の意味では、この在宅者に対する死者率の方が真実に近いのではないかと考えている次第である。そして今回の津波災害は、我々が漠然と想像しているよりも遥かに悲惨なものだったのではないかと、さらに、もし今回の津波災害が、過去の多くの津波災害のように夜間に発生していたならば、犠牲者の数は恐らく2倍近くに増えていたのではないかと推察される。



羽生選手に仙台市長より賛辞の楯を贈呈

津波被災地域の町字別被害統計資料に基づく死者率の比較

住所(町字別)	人口 [人]	在宅者* 在校生[人]	死者/不明 者[人]	人口に対する 死者率[%]	在宅者に対する 死者率[%]	参考 文献	備 考
石巻市立大川小学校	—	119	84	—	70.6	[1]	児童+教職員の数
釜谷地区(入釜谷を除く)	(380)	209	175	(46.1)	83.7	[1]	生存者 34 人のみ
石巻市金谷字菫島	222	122	105	47.3	86.1	[2]	これらの3地域を併せて上記の釜谷地区に対応
石巻市金谷字新町裏	110	61	49	44.6	80.3		
石巻市金谷字谷地中	48	26	21	43.8	80.8		
石巻市長浜字江畑	247	136	34	13.8	25.0	[2]	釜谷地区より海側
石巻市門脇町3丁目	492	271	50	10.2	18.5	[2]	石巻日和山南地区
石巻市南浜町2丁目	671	369	63	9.4	17.1		
石巻市松原町	556	306	79	14.2	25.8	[2]	石巻渡波地区
石巻市長浜町	416	229	44	10.6	19.2		
石巻市雄勝町雄勝字味増作	325	179	32	9.9	17.9	[2]	雄勝地区の中心部
宮古市田老地区旧市街地	1610	886	72	4.6	8.1	[3]	二重防潮堤の内側
宮古市田老地区新市街地	566	311	55	9.7	17.7		二重防潮堤の外側
名取市閑上1丁目	655	360	49	7.5	13.6	[4]	最も内陸側
名取市閑上2丁目	873	480	211	24.2	44.0		貞山堀の陸側
名取市閑上3丁目	342	188	45	13.2	23.9		貞山堀の海側
名取市閑上4丁目	762	419	89	11.7	21.2		漁港・市場
仙台市若林区荒浜地区	2421	1332	190*2	7.8	14.3	[5]	仙台市の海岸集落

*1 在宅者の人数は別途に推定した在宅率[0.55]を人口に乗じて算出している。

*2 荒浜地区に建立された慰霊碑の犠牲者数を用いている。

参考文献

- [1] 大川小学校事故検証委員会：大川小学校事故検証報告書，2014. 2.
- [2] 石巻市生活環境部市民課：被害統計 東日本大震災における石巻市の犠牲者数[人口(2011年2月末現在)，犠牲者(2014年2月末現在)]
- [3] 毎日新聞「震災検証」取材班：検証「大震災」伝えなければならないこと，毎日新聞社，2012. 2.
- [4] NHKスペシャル取材班：巨大津波 その時ひとはどう動いたか，岩波書店，2013. 3.
- [5] 仙台市公式ウェブサイト，統計情報せんだい，人口および国勢調査 <https://www.city.sendai.jp/kikaku/seisaku/toukei/index.html>

[2014年4月23日(水)]

○今朝の東京新聞で最も注目したのは斎藤美奈子氏による右のコラム『中立って何』であった。筆者も以前(2012.9.16.の本欄)に同じようなことを考えていたので、このコラムの印象は正に我が意を得たりであった。冒頭に出てくるNHKニュースの“政治的中立への配慮”がどのようなニュアンスで報じられたのかは良く判らないが、自治体等が所有する公共施設は何のためにあるのだろうか。もしかして“NHKのど自慢”や“何でも鑑定団”の様な娯楽目的でないと利用できないのだろうか。“中立”と云うのは、どちらにも偏らない座標の原点(真ん中、もしくは平等、あるいは公平)と云うような意味であろうが、神様でもない限り絶対座標の原点には立てる訳がないので、その座標と云うのは相対的なものでしか有り得ないのではなからうか。そうであるならば、その人の思想信条によって、あるいは価値感によって、座標の原点は右にも左にも揺れ動くものとする方が自然であって、中立軸を厳密に定義しようとするよりは許容範囲を広くして、様々な考え方を受容することの方が好ましいのではないだろうか。もし「自分は中立の立場に立って物事が判断できる」と云う人が居たら、筆者はその人のことを決して信用しないであろう。かつて、エルサレム賞の受賞講演で『高く強固な壁(システム)と、それにぶつかって割れる卵があるなら、どれだけ壁が正しく、どれだけ卵が間違っていようとも、私は常に卵の側に立つ』と明言した村上春樹氏の方が、人間的にはよほど好感が持てそうに思われる。

本音のコラム

二十一日のNHK午後七時のニュースが「政治的中立への配慮」が相次ぐと題して講演会や展示会に対する自治体の対応を報じていた。「施設の貸し出しを断ったのは自治体(余白市)で二件。内容の変更を求めたのは東京都足立区、福井県、福井市、京都府の五自治体六件。後援の申請を断ったのは札幌市、宮城県、長野県、茨城県、千葉県、静岡県、堺市、京都府、静岡県、神戸市、大津市、岡山県、鳥取市、福岡市の十四自治体で二十一件。こんなにも多くの自治体が市民の自由な活動に機や市を人入れていたなんて初めて(これは都道府県、県庁)

中立って何

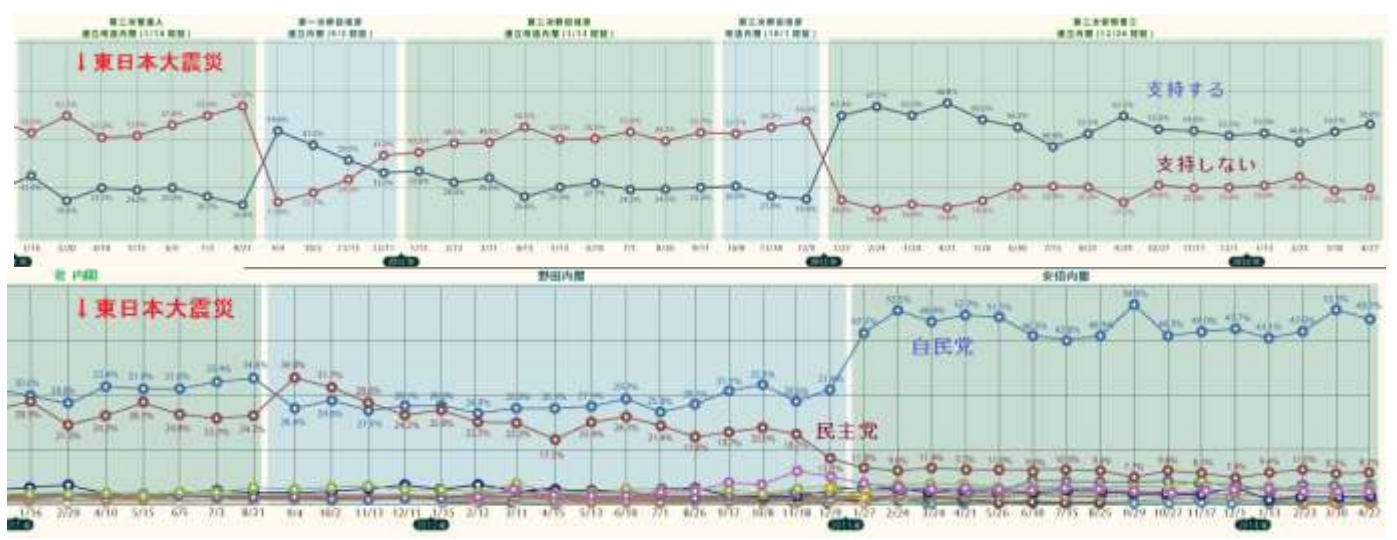
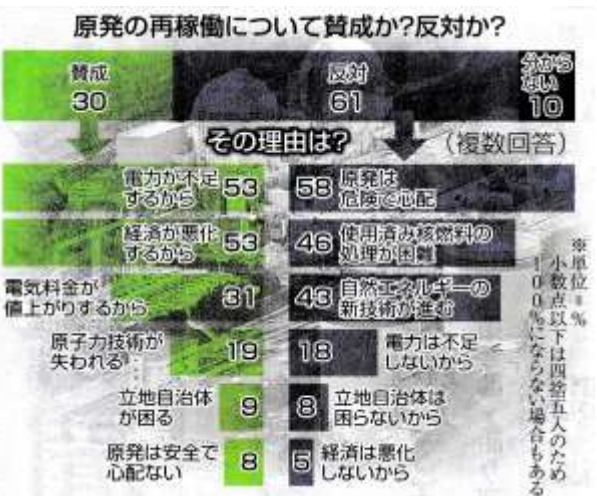
斎藤美奈子

所在形市、東京二十三区、政令指定都市を合わせた百十一自治体だけの調査。実際はもっと多いのだろう。内容的には憲法十一條、第五七條、ほかでPPPや介護、税と社会保険など。

この件が昭に発するメツツは「一政治的な意見を述べてはいかんよ」「政府に意見を述べろ」という論調が平気でまかり通っている現状だろう。笑っちゃうのは、この種の「配慮」には熱心な自治体がある。選挙になると急に投票を呼びかけるパカバカさだ。一政治的に中立って、どうやって誰かのために投票するのさ。このように建前と本音を使い分けるダブルスタンダードが人々の政治離れを助長する。投票率が低いと高く買収されないよ。(文芸春秋論議)

[2014年5月1日(木)]

○5月3日の憲法記念日を前に、東京新聞は全国の有権者約1500人を対象に世論調査を実施している。その結果は右の通りで、憲法9条についてどう思うか、安倍政権による集団的自衛権の行使容認をどう思うか、原発の再稼働について賛成か反対かなど、それらのいずれについても安倍政権の考えとは



反対の意見の方が圧倒的多数を占めている。不思議なのは、それにも拘わらず安倍内閣や自民党の支持率が一向に下がらないことである。因みに“内閣支持率”をネットで検索してみると、テレビ朝日が継続的に行っている前ページのような世論調査の結果を見ることができる。上段は内閣支持率、下段は政党支持率の推移を示していて、東日本大震災の発生前後から現在までの推移を見てみると、政権が民主党から自民党に代わった2012年12月の時点で劇的な変化があったものの、それ以降には大きな変化は認められない。なんとも不思議なことである。

[2014年5月15日(木)]

○最近印象に残った新聞記事のいくつかをこの備忘録に残しておきたい。その一つは 5月4日の東京新聞『筆洗』で、草花写真家埴沙萌氏の著書を引用し、「のろまな、はみだしもの」は自然界のみならず、農業の品種改良の世界においても見直されるべきではないかと述べている。

筆洗 草花という足元の小宇宙を振り続ける埴沙萌さんが、「植物記」(福音館書店)で「のろまなフジ」の話を書いている。ある年の春、ひどい遅霜のため農作物に大きな被害が出て、野山の木の芽も枯れた。一言に色づき始めていたフジのつぼみも枯れてしまった。ところが一株だけ咲いた▼毎年ほかの株より二、三週間遅れて咲く「のろまな、はみだしもの」の株だけが霜に耐え、花を咲かせたのだ。埴さんは、へ「自然は、こんなときのために「はみだし」を用意してあるんだ」と感動したそうだ▼一言に咲き、一言に実る。人類はそういう植物を好み、選んで育ててきた。野生のイネはそろって発芽せず、実ればさっさと種子を落とす。それが自然の知恵なのだが、それでは農業にならない▼一言に実り、しかも入が刈り取るまで穂が落ちない。そんなイネをつくり出したのは人類の英知だが、今年の中日文化賞の受賞者となった名古屋大学の松岡信教授は「そろそろできた作物は、野生のイネが本来持っていた厳しい自然で生き抜く力を失っているのです」と語る▼松岡さんはいま、一万年もの品種改良の歴史の中で捨て去られてきたたくましい力を、遺伝子レベルで見つけ、活かすことに挑戦しているという▼協調性がない、非効率だと切り捨てられてきた「はみだしもの」に潜む力は、どんな花を咲かせてくれるだろう。 2014.5.4

○5月5日の投書欄では『「わだつみ」ぜひ読んで』が特に印象に残った。ここで紹介された木村久夫さんは京大経済学部学生で昭和17年に入営、昭和21年5月にシンガポールの刑務所において戦犯刑死。当時28歳の陸軍上等兵であったそうである(きけわだつみのこえー日本戦没学生の手記一第1集, 光文社 KAPPA BOOKS, 1959)。早速読ませて頂いたが、手記を紙に書くことを許されない状況の中、愛読書の余白に連綿と綴られた手記は言語を絶するものであった。いかに悟りの境地を得たとは云え「私は生きるべく、私の身の潔白を証明すべく、あらゆる手段を尽くした。私の上級者たる将校連より、法廷において真実の陳述をなすことを厳禁せられ、それがため、命令者たる上級将校が懲役、被命者たる私が死刑の判決を下された。これは明らかに不合理である(以下略)」さぞかし無念だったであろう。

○5月10日の東京新聞1面では『五輪 改修国立競技場で』の記事が目をつけた。この代替案は中沢新一氏の提案を建築家の伊東豊雄氏が現競技場の構造を生かした改修案として具体化したもので、「安倍首相の言う東北の復興と東京五輪の両立は矛盾しており、改修して良いものを造ることができれば『もったいない』の文化を日本の建築思想として世界に発信できる」との言は正論であろうと思われた。

○5月11日の東京新聞“本音のコラム”では、山口二郎氏の『国防



27 特報 11版 2014年(平成26年)5月11日(日曜日) 本音のコラム 自民党の野田聖子総務会長が、安倍政権の進める集団的自衛権の是非について、慎重論を唱えている。その中で、人口が減り、社会が衰弱する中で安全保障をどう考えるべきかという問題提起をしている。国防の本旨 山口二郎氏

「五輪改修国立競技場で」 2020年の東京五輪に向け国立競技場の準備が急務で、建設費が莫大に膨らむ恐れがある。伊東豊雄氏ら建築家が、既存の国立競技場の構造を生かした改修案を発表した。改修案は、既存のコンクリート造のスタジアムを基本とし、屋根は既存の屋根を再利用する。また、既存のスタジアムの構造を強化し、座席数を増やす。改修案は、新築に比べて費用が大幅に削減できるという。伊東氏は、新築は費用が莫大に膨らむ恐れがあるため、改修案を発表した。改修案は、既存のコンクリート造のスタジアムを基本とし、屋根は既存の屋根を再利用する。また、既存のスタジアムの構造を強化し、座席数を増やす。改修案は、新築に比べて費用が大幅に削減できるという。

の本旨』が断然光っていた。「政治経済のエリートがいま、この瞬間の利益を追求するあまり、若い世代を牛馬同然の、食べて寝るだけの低賃金労働力として扱い、家族を持つ余裕を与えないことこそ、人口減少の最大の原因である。人がいなくなり、スカスカになった国土を防衛することに何の意味があるのか。日本という国をここまでやつれさせて、政治経済の指導者として恥ずかしくないのか」。正にその通りである。

2014年5月15日 文責：瀬尾和大